藤　女　子　大　学　　No.69

図書館だより

'05.01

発　見

箱山　富美子（食物栄養学科）

4月から日本で教え始め、いろいろな発見をしました。その都度、驚いたり、憤ったり、心を痛めたり、喜んだり、と私の反応も様々です。

その一つが、日本のマスメディアの姿勢。

90分の英語の授業のうち、20分位を外国のニュース番組に使っています。1－2分程のBBC World Newsが多い。日本語で見たトピックなら英語でも理解しやすいのでは？という前提で始めました。いきおい毎週、世界の報道と日本のニュースとを比較することになります。そして気が付いたのです。日本では報道の自由が完全に保障されている、世界のあらゆる情報に溢れている、とみんな思っているけれど、実は日本のテレビや新聞とBBCやCNN, Radio France Internationaleなどの報道とにはかなりの差があることに。

イラクの例を引いてみま[illegible]刑務所の囚人虐待事件は世界中に大きなショックを与え、いろいろな国の対イラク政策の方向を変えました。アメリカでは政府首脳の国会での公聴会喚問にまで発展しました。その契機になったのは写真やビデオの報道です。視覚に訴える力の大きさが世界政治の流れを変えたのです。ところが日本ではその写真やビデオが諸外国ほどオープンに公開されませんでした。一般の目に触れたのはこの事件が一段落して、世界政治の動向が変わってから後、という写真や映像が多い。授業の準備をしつつこの落差に気が付いて、これは大変な事だぞ、と注意を向けるようになりました。世界政治が動いているその時に、その動かす元になった情報を世界の人々と共有できないということは、日本人がその動きの蚊帳の外に置かれたことに他ならないのです。

新聞でこの問題について、ある識者が説明していました。新聞やテレビは公共のものだから、公[illegible]も知れないし、目に訴える物は特に影響力が強いから、注意しなければならない。イラクの報道では裸の写真だとか、拷問の映像だとか、辱めの度

目　　次

発見 ……1
箱山　富美子

資料紹介 『國華』DVD-ROM ……4
種田　和加子

目録担当者のつぶやき ……6

お知らせ ……6

合いが強い場面、遺体の写真など、ショックが大きすぎると判断されたものは自粛されたケースが多い、と。でもそれなら、日本人は世界の人々が共有している情報を奪われていることになります。奪っているのはマスメディア？ 私達は新聞やテレビの報道は正しく、公平で、自由だ、と信じてきました。報道管制のあった時代や、未だに自由でない国があることを覆えてもきました。でもそれが他人事ではなく、今現在の私達の状態だったとは！

メディアの「自粛規制」によって私達の知る権利が犯されているなんて、藤女子大に来るまで知りませんでした。

イラクの日本人人質事件の報道でも、同じように、外国メディアと日本の報道で落差がありました。映像も違っていましたし、外国では繰り返し流された「生きたまま焼き殺す」という表現が、日本では単に「殺す」でした。ここにもショッキングな報道は控えようという「配慮」が窺えます。しかしそのような「配慮」をすることが、果たして事実をゆがめて伝えることにはならないのか？という疑問が残ります。

スーダン西部のダルフールで起こっているジェノサイド。外国の報道では2003年から話題になっていましたし、2004年に入ってからはかなり頻繁に報道されるようになりました。私も授業で使おうとニュースのビデオを何度か用意しましたが、日本では一向に採り上げられないので、無駄になってしまいました。とうとう業を煮やしてある時授業で見せたのですが、その後やっと、少しずつではありますが報道され始めました。ある新聞の記者に「どうしてこんなに大変なことが無視

されているんだろう？ 新聞社には世界から情報は入って来ている筈なのに。」と質問しました。返ってきた答えは：「テレビや新聞は視聴率だとか読者の反応だとかに敏感です。残念なことに日本の読者や視聴者は日本のことにしか興味を示しません。」

そう、確かに私達にも責任はあります。でもちょっと待って欲しい。大衆の興味に迎合するだけがテレビや新聞の役割ではない筈。事実を示し、世論を喚起し、社会を引っ張っていくのがマスコミの「レーゾン　デートル」では？ その気概が失われてしまったとは思いたくない。

それともマスメディアは他の隠された役割を担っているのかしら？ 20数年ぶりに戻った日本があまりにも大衆を馬鹿にしたような白痴番組に溢れているのを見ると、これは国民を考えさせなくしようという深慮遠謀ではないか、なんてつい勘ぐってしまいます。オーウェルなどが、またいろいろなSF小説などが警告してきた現象が今、現実に迫ってきているのかもしれない、と思われて

背筋が寒くなります。

物語といえば、荒唐無稽と思ってきたいろいろなSF小説や冒険小説の世界が現実のものとなってしまったのにも驚いています。「テロと戦う世界帝国」など、一昔前までは物語の世界でしかありませんでした。それがいまやニュース番組で連日連夜報道されています。世界が狂ってしまったのかしら？ アメリカはどうなってしまうのかしら？

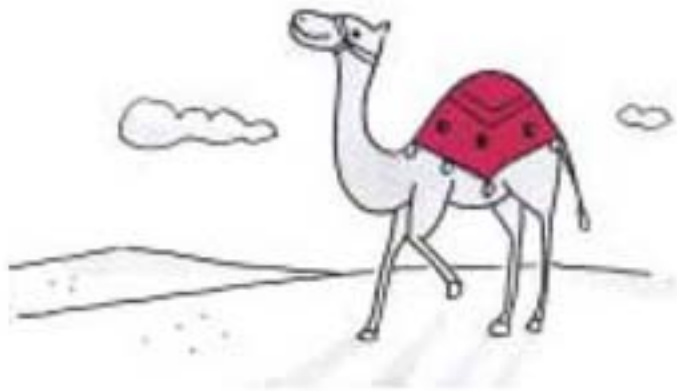
このような現実の中で、頼りにならない報道に頼って生きていかなければならない今の学生は本当に大変です。わたしが考え得る対処方法は二つ：自分で考える力をつけること。（この中には、しっかりした情報を集められる力も含まれます。）そして正しいと思うことを実行する精神力と行動力をつけること。外界がめまぐるしく変わる今の世の中にあって、押し流されないように、しっかりした自分を作り上げることは一番重要なことです。誰かが作ってくれるのではない。自分が自分を作るのです。

2004年の藤花祭で私はスーダンの子供に質問された話をしました。「どこから来たの？」「日本から」「ふーん、日本ってどんなとこ？らくだはいるの？」「いない」「ろばは？」「1頭もいない」「羊は？」「いない」「じゃ、山羊は？」「いない」「へー、日本ってやなとこだね。僕日本になんか住みたくないや」

この会話があったのは15年も前の事ですが、いまでもはっきり覚えています。とっても印象的でした。仕事で旅した砂漠。その途中休憩をとってお茶を飲んでいた私に貧しい羊飼いの男の子が、興味をもって話し掛けてきたのです。地図など見たこともなく、アジアのことも日本のことも聞いたこともない子でした。知らない世界に対して興味をもちながら、自分の生活に対しても強い誇りを持っていました。その誇りは自分の世界にしっかり足をつけて生活している、その自信からきているようでした。

今の日本の若者にはこのように確固として自分を持っている人は少ないように見受けられます。学生時代に自分の拠って立つ基盤を作り上げ、自信と判断力と行動力を身につけて、卒業してから大きく翔いて欲しい、と切に望んでいます。

（本稿の内容は2004年の藤花祭で行った公開講座『もっと心を開こう』の一部を元にしています。）



資料紹介　『國華』DVD-ROM

種田　和加子（日本語・日本文学科）

明治二十二年十月に創刊された美術研究誌『國華』がDVD・ROM化されて一世紀を超える今日までの足跡をたどることができるようになった。明治二十二年といえば大日本帝国憲法公布の年、欧化主義への反動として国粋主義が台頭している。またこの二十年前後は「国」や「日本」を冠した雑誌、新聞が多く創刊された。メディアと国民国家形成の関係は研究がより精密になってきているので、反復はしないが、『國華』が「われわれ」の「美術」を生み出す必然性の一端を担って登場したことはその命名をみても分ることだ。

デジタル化されたとはいえ、創刊号の表紙の図案を再現した大変立派な装丁がなされている。まずその巻頭論文を見ると、有名な「夫レ美術ハ国ノ精華ナリ」という書き出しがあって、無記名であるが、水尾比呂志の解説『国華の軌跡』によれば高橋健三と岡倉天心の合作ではないかと述べられている。「美術ハ国民ノ美術ナリ国華ハ国民ヲシテ自国ノ美術ヲ守護スルノ必要ヲ唱導シテ止マサラントス」との文面からもその使命感と啓蒙的姿勢は明らかである。また、そのためには「歴史畫」というジャンルが重要であることも強調されている。つづいて九鬼隆一「国華の発兌ニ就テ」フェノロサ「浮世繪史考」ビゲロー「日本工藝家の注意」岡倉覚三「円山応挙」といった論考を掲載している。『國華』には「歴史教科書」にも必ず登場する美術に関わる人物の名がきら星のごとく並んでいる。ウイーン万博（明治六年）に発するジャポニスムの影響下、西洋のまなざしが浮世絵や工芸品に注目し、「日本美術」のイメージを作り出す一方で、「日本」が主体となって多くの貴重な古美術品の流出を防ぎ、世界に認められる「日本」の「美術」を守り、「美術史」を形成しなければなければならないという事情が『國華』の創刊を促したといえよう。

『國華』DVD－ROM　1-2
創刊号（1889年）～1274号（2001年）＜本館所蔵＞

今回、わたくしの関心をひいたのは、1997年8月号の「特輯「源氏物語畫帖」（ハーヴァード大学美術館蔵）」で、1992年にその存在が知られたハーヴァード本、土佐光信を中心とする集団の製作と判定される「源氏物語畫帖」（15世紀後半から16世紀前半ごろと推定されている）についての論考、千野香織、亀井若菜、池田忍の共同執筆による「ハーヴァード大学美術館蔵「源氏物語畫帖」をめぐる諸問題」である。画風から特定される土佐光信の活動や、源氏繪の製作と受容、そういう源氏物語畫帖をいかに評価するか、といった方面から論じられていて、千野氏によればハーヴァード本源氏物語畫帖は男性同士の絆を深めるために男性のために描かれ、享受者も男性であった、と結論づけられる。とくに室町時代後期の源氏繪の社会的機能がジェンダーの視点から考察されているのは、『國華』創刊から百年をすぎて、美術史の通念を問い返す方向性が提示されたという点で、大変興味深い。

注）読み易さを考慮し、旧字体を新字体とした箇所がある。

『國華』1222号（1997年8月）

1275号（2002年）からは、雑誌で所蔵しています。本館地下集密書庫の大型雑誌架にありますので、どうぞご覧ください。

目録担当者のつぶやき

皆さんこんにちは。私の仕事は受入した図書の分類と、図書目録データベースの作成を行っています。図書の分類って皆さんお分かりですか？本の背にラベルが貼ってありますが、一段目の数字が分類になります。これは日本十進分類法に基づいて、図書の資料を迅速にかつ正確に探すために役に立っているのです。多くの図書館ではこの日本十進分類法が採用されています。当館でも日本十進分類表の第6版を基にして分類を付けています。(一部の分類では7,8,9版を採用) 目録担当者が分類することで、本が図書館のどの棚に並ぶのかがここで決まります。皆さんがよく利用する分野3門（社会科学)、4門（自然科学)、8門（語学)、9門（文学）などは細かな分類を付けています。ラベルの2段目は著者記号をあらわしています。これも日本著者記号表というものがあり、それに基づいて記号を付けます。3段目は巻号などに使います。例えば全集やシリーズなどの時に多く使われ、1.2.3というように番号順に並ぶようにしています。ところでラベル1段目の分類の数字の桁数が一番多いのはわかりますか？答えは913.3603と7桁あり、図書館の参考図書の所にありますので探してみてください。この他にも皆さんがOPACで書名、著者名などから検索が出来るように、書誌・所蔵情報など図書目録データベースの作成も行っています。分類について詳しく掲載されている日本十進分類法は014.4 / Mo45のところにあります。興味のある方は一度見てくださいね。(T.N.)

お知らせ

少し前のことですが……

図書館システムが新しくなりました

前号でもお伝えしたように、夏休みの2週間の休館中に図書館システムの更新を行いました。

館内のレイアウトはほとんど変わっていませんが、インターネット端末が新しくなったり、増設されたりしています。また、OPAC（利用者用検索端末）の画面構成が新しくなり、以前より詳細な検索ができるようになったことにはもう気づきましたか？私たち職員の使っている業務用端末も一新し、新たに使えるようになった機能も増えました。

すでに昨年9月から図書館内外の掲示板でお知らせしていますが、システム更新に伴い、利用問い合わせのパスワードが利用者IDに一括で変更されています。旧システムで設定していたものも利用者IDに初期設定されています。新システムになってからパスワードの変更をまだ行っていない方は、なるべく早く独自のものに変更することをおすすめします。パスワードは館内からだけでなく、学外からも図書館ホームページを通じて変更できます。変更方法は掲示板や館内OPAC横に掲示していますが、ご不明な点がありましたら直接図書館カウンターにお尋ねください。

藤女子大学 **図書館だより** 第69号 2005.01

発行者 札幌市北区北16条西2丁目 藤女子大学図書館
TEL 011－736－5407 FAX 011－709－4770
http://library.fujijoshi.ac.jp/index.html